

新婦人アンケートに切実な声

コロナ禍 女性直撃



ハローワーク前で仕事や暮らしの「困った」の声を集める新婦人京都府本部の人たち＝16日、京都市下京区(画像一部加工しています)

コロナ禍で社会の矛盾が顕著に女性に響いていっています。もともと非正規雇用や低賃金・不安定雇用で置かれていた女性が、収入激減・解雇・雇止めなどに直撃されているのです。新日本婦人の会が11月に行った「コロナ禍での仕事の『困った』の声」女性アンケートに寄せられた実聲は。

住居退去／夫婦で非正規

香川県の40代の専業主婦は、5年以上働いていながら、5年ほど前から収入が激減して、生活が苦しくなりました。コロナ禍で収入がさらに減り、住居退去の危機に直面しています。

生活が苦しくなると、貯蓄もなくなり、不安が募ります。収入が激減し、生活が苦しくなると、貯蓄もなくなり、不安が募ります。収入が激減し、生活が苦しくなると、貯蓄もなくなり、不安が募ります。

アンケート 20～50代が7割

新婦人しんぶんやネット上で呼びかけ、11月4日から20日で358人が回答。回答の7割を20代～50代が占め、非正規は43%、正規は36%でした。

解雇・雇止め

(20代・派遣) 発熱し2週間休業。微熱が続いたところ突然解雇され、住居も退去。

(40代・コールセンター・非正規) 12月末で雇止めを通告。

(50代・製造・非正規) 売り上げ減で解雇。世帯主ではないからと国保の減免も不受理。夫のがんで医療費が大変。

(50代・母子家庭) リストラ対象にされ離職。体調も崩し、失業給付で何とか生活している。

収入減

(30代・飲食・自営) 店が軌道に乗らなかつた。客足が途絶えた。子どもが4人いるが、家賃交渉にも応じてもらえず、苦しい。

(40代・製造業・非正規) 一斉休校中は仕事を休み収入半減。雇用主が小学校休業等対応助成金の支払いを

拒否。(50代・派遣) 複数の派遣先に登録するも、派遣先の多くが休業。紹介されるのは10時間労働や冷凍倉庫内の仕事、荷物の積み降ろしで年輪的に辛い。

(50代・イベント業・自営) 全キャンセルで収入ゼロ。従業員との雇用維持で持続化給付金の200万円も底を突き、廃業が頭に浮かぶ。

シングルマザー

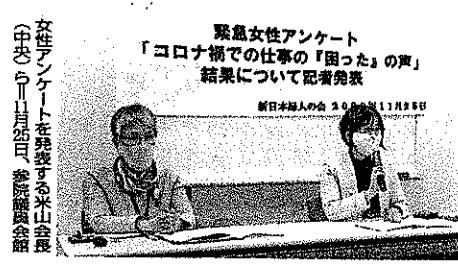
(30代・接客業) 難病があり感染への恐怖で退職。持病があると再就職困難で困窮。子のインフルエンザ予防接種の負担が大きい。

(30代・看護師・正規) 貯蓄できないなか、賞与がなくなり子育てに大きな不安。悲観的な思いばかりよぎる。

(30代・看護師・正規) コロナ患者受け入れの病院勤務で帰宅が遅く、子どもとの時間が取れない。いつも退職したいと思っている。

(40代・製薬会社・非正規) 消毒薬の製造ラインがフル回転で、非正規なのに深夜まで働かされ子の面倒を見られない。正規への見通しもなく理不尽な思い

ゼロになり、電気代や水光熱費もかかるのに、在宅勤務手当も出ません。前職で体調を崩した夫は服飾関連のアルバイトをしており、手取りは14万円。専業主婦は「2人でなんとか生活している」と話します。



年越しへ支援ただちに

新日本婦人の会 米山淳子会長 コロナ禍による女性の苦難が社会問題となるなか、今回のアンケートは「仕事」に焦点をあてて年越しを前に実態をリアルにつかもうとしたものです。

2月以降、一斉休校の緊急措置を失い、収入を絶たれ、社職、検査拡充など、コロナ禍の会になつてはならない労働、子育てや介護の多くを担いながら、PCR検査も断られ、職場でも家庭でもストレスと疲労の限界。非正規雇用の女性やシングルマザーの困窮が際立ち、「コロナうつ」との訴えもたくさんありました。

新日本婦人の会 米山淳子会長 コロナ禍による女性の苦難が社会問題となるなか、今回のアンケートは「仕事」に焦点をあてて年越しを前に実態をリアルにつかもうとしたものです。緊急のよびかけでしたが、予想を超える皆さんの切実な声が寄せられ、どの声もこの国のあり方を問う、叫びとも響き合えるものです。職を失い、収入を絶たれ、社職、検査拡充など、コロナ禍の会になつてはならない労働、子育てや介護の多くを担いながら、PCR検査も断られ、職場でも家庭でもストレスと疲労の限界。非正規雇用の女性やシングルマザーの困窮が際立ち、「コロナうつ」との訴えもたくさんありました。